

令和元年 第12回

教育委員会定例会会議録

とき 令和元年12月10日

品川区教育委員会

令和元年第12回教育委員会定例会

日 時 令和元年12月10日(火) 開会：午後2時
閉会：午後2時39分

場 所 教育委員室

出席委員 教 育 長 中島 豊
教育長職務代理者 菅谷 正美
委 員 富尾 則子
委 員 海沼 マリ子
委 員 塚田 成四郎

出席理事者 教 育 次 長 本城 善之
庶 務 課 長 有馬 勝
学校施設担当課長 若生 純一
学 務 課 長 篠田 英夫
指 導 課 長 工藤 和志
教育総合支援センター長 大関 浩仁
品川図書館長 横山 莉美子
統括指導主事 丸谷 大輔
統括指導主事 唐澤 好彦

事務局職員 庶 務 係 長 小林 則雄
書 記 亀田 万恵
書 記 中嶋 康二

傍聴人数 1名

そ の 他 品川区教育委員会会議規則第14条の規定に基づき、会議の一部を
非公開とした。

次第

- 報告事項1 令和2年度学校選択における抽選校について
報告事項2 都費教職員の任免等について（休職）

令和元年第12回教育委員会定例会

令和元年12月10日

【教育長】 ただいまから令和元年第12回教育委員会定例会を開会いたします。

署名委員には、冨尾委員、塚田委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

本日は傍聴の方がおられますので、お知らせいたします。

まず、本日の会議の持ち方についてお諮りいたします。

日程第1、報告事項2、都費教職員の任免等について（休職）。この報告事項は、人事に関する案件ですので、品川区教育委員会会議規則第14条の規定に基づき、非公開の会議といたしたいと思いますが、ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

【教育長】 異議なしと認めまして、本件につきましては全ての日程の終了後に審議することといたします。

それでは、本日の議題に入ります。日程第1、報告事項の1「令和2年度学校選択における抽選校について」、事務局より説明をお願いいたします。

【教育長】 学務課長。

【学務課長】 それでは私から、学校選択における抽選校についてご説明をいたします。資料1をごらんください。この資料ですけれども、11月に学校選択の申し込み状況についてご説明を差し上げた資料と基本的には一緒でございます。

このうち網掛けになっている部分が抽選校という形で、11月の段階では今年度まだ抽選校は決まっていなかったもので、今回12月に入りましたけれども、改めてお知らせをするというものでございます。

抽選校につきましては、今回令和2年度の春に新入学生について、まず表のほう、1ページ目の一番左側、小学校と義務教育学校の前期課程ですけれども、今回は全部で19校となりました。真ん中、令和元年度、昨年が16校、その一番右、平成30年度は14校でしたので、毎年のように増えているというような状況でございます。

こちらですけれども、一番左、令和2年度のいわゆる住民基本台帳による予定数の合計の3,223名、これが来年度4月に入学が予定されているお子さんの10月1日現在の数ですけれども、昨年度と比べましても、昨年度が3,044名ですから、179名ということで、180名近く増えているというような状況でございます。前年度と比べますと、30年度から令和元年度についても130名以上増えていますので、毎年のようにこのような形で子供たちが増えてきているという状況でございます。

したがって、各学校のキャパシティーは毎年変わるものでもないことから、どうしても許容量に対して希望申請が増えてしまうと、こういった抽選校が増えるという状況になってくるものでございます。

基本的には、表の中で入学予定者数というものがあって、それからその右に受け入れ枠というのがあって、受け入れ枠を超えたところが抽選校になるんですけれども、一部の学校においてはそうならないところがございます。例えば、5番目の城南第二小学校で

すけれども、こちら、枠の中の令和2年度の入学予定者数が86人になってございまして、その右、受け入れ枠が90になってございます。90よりも予定者数が少ないので、通常であれば抽選にはならないんですけども、こちらの学校をよく見ていただくと、希望申請はマイナス54という数字が入っています。これは、城南第二小学校の学区にお住まいの方で、城南第二小学校以外の選択をされた方が54人いらっしゃるということなんですけれども、結局希望申請をされた方であっても、そちらの学校の抽選に外れてしまって入れないという方もたくさん出てくる可能性がある。そうなりますと、結局、城南第二小学校に戻ってこられますので、現状は86人ですけれども、これがさらに増える可能性がある。そうしますと、受け入れ枠の90人は超えてしまうだろうということで、現状では受け入れ枠の中におさまっていますけれども、抽選校となっているといたものでございます。

一方、下のほう34番の八潮学園。こちらは受け入れ枠は90なんですけれども、予定者数が140になってございます。ただ、こちらは網掛けがされてございまして、抽選校になっていないということです。受け入れ枠をかなりオーバーしているんですけども、なっていない。これはちょっと特殊な事例でございまして、お隣の浜川小学校、14番に浜川小学校があるんですけども、住基のお子さんが200人を超えている中で、受け入れ枠というのは学校の規模がありますので、なかなか設定できないところがあるということです。八潮学園に関しましては、この浜川小学校の学区から選択で申請をされている方が大勢いらっしゃいます。こちらの方が仮に八潮学園の受け入れ枠で蹴られてしまって戻るとなると、浜川小学校でどれだけ受け入れられるかというのが非常に難しくなるということがございまして、一方、八潮学園は学校自体が施設に余裕があるということで、一定程度受け入れられるだろうということがありますので、受け入れ枠は超えていますけれども、受け入れることとして抽選はしない。ここは特に浜川小学校のエリアはそういった状況があるということで、ちょっと特殊な事例というような形で、通常とは違う、例外的な扱いをしているものでございます。

資料のほうを裏返していただきますと、裏が中学校と義務教育学校の後期課程となります。中学校に関しましては、こちらの抽選校来年度は全部で8校になってございます。前年が5校、その前が2校ですので、中学校のほうもかなり急激に増えてきているという状況がございまして、中学校に関しましては、選択率自体を見ていただくと、今年度が、希望申請の割合が24.5%ということで、前年が27.5%でしたので、3%ほど下がっているような状況ではございます。ただ、今回、学事制度審議会の答申に基づいて通学域等、さまざま変更してございまして、特に中学校の場合には小学校とグルーピングしたことでかなり学区域が変わっているというのがございます。

それに伴いまして、若干選択の方向性に、例年とは違う形が出てきたのかなと思われるところがございまして。例えば、今まで同じ小学校から3つの中学校に分かれてしまっていたような場合ですと、お友達と一緒にいきたいというような形で学校選択でされていたところが、逆に今回グルーピングをしたことによって、1つの中学校から全部皆さん同じ学校に進めるようになりましたので、そういった学校に関しては逆に選択が減ったのかなというようなことがあったりとか、さまざまな事情があつての中で、今回こういった形で志望状況が動いてきているということがございます。

中学校に関しましてもお子さんの数が増えてきている、前年が2,523人に対して、2,660人という状況で、逆にこちら130以上増えてきていることがございますので、キャパシティの関係もあって、どうしても抽選せざるを得ない状況がだんだん進んできているというようなことがございます。

中学校に関しましては15校中8校、小学校に関しましては37校中の19校ということで、いずれも過半数の学校が今、抽選になってしまうという状況になってきてございます。

教育委員会といたしましても、できるだけ子供たちを受け入れられるように住民登録が増えているような地域の学校に関しましては改築等進めておりますが、なかなか一朝一夕には進まないところがございますので、当面はこういった抽選の学校が増えていくというような状況が継続していくのかなというふうに考えているところでございます。

私からの説明は以上でございます。

【教育長】 説明が終わりました。質疑があればお願いいたします。

なかなか複雑な状況があるようですが。

富尾委員。

【富尾委員】 11月のときにも伺ったかもしれないんですけども、浜川小学校で今年度希望申請数が非常に増えているというのはどういった原因だったのでしょうか。

【教育長】 学務課長。

【学務課長】 浜川小学校に関しましては、住民登録の方が211名いらっしゃって、ほかの学校を志望された方が135名ということで、かなり大幅に減っているような状況がございます。これは、ちょうど浜川小学校の建て替えがこれから始まるということで、建て替えの学校というのはどうしても避けられる傾向がございます。特に浜川小学校の場合、これから始まりますと概ね校庭整備まで含めると5年ぐらいはかかるとなると、入ってからほとんどずっと建て替えの工事が続く状況ということになります。こちらの浜川小学校の学区の方、ほかの地区、先ほど申し上げた八潮学園をはじめとしまして、大井第一ですとか、近隣の学校を志望されている方が例年よりもかなり多い状況にあるということでございます。

それから、先ほど1点申し上げるのを忘れたんですけども、この抽選なんですけれども、実は本日から始まってございまして、本日から3日間行われてございます。午後2時から順次行われてございますので、もし、委員会終了後お時間があるようであれば、なかなかこういう機会、うまく教育委員会がぶつかる機会はあまりないものですから、もしご関心あればごらんいただければということでございます。

以上でございます。

【教育長】 改築の関係があると。例えば同じような状況は26番の後地小学校が今まさに改築をやっている最中で、全体的に子供が増えている状況はありますけれども、マイナスになっている状況です。後地は小学校で唯一学区が変わっているところでもありますので、移行措置の中でもとの学校へというような部分も入っているという状況があるとは思いますが、なかなか学校によってそれぞれ事情が複雑に絡みあっているところでございます。

富尾委員、いかがですか。

【富尾委員】 わかりました。

【教育長】 どうぞ、続けて。

【富尾委員】 今回中学校から学区域が大幅に変わったりということがあって、抽選校を決めるのをかなりご苦労されたんじゃないかなというふうに思うんですけども、うまく抽選に移行できたんでしょうか。というか、どういうことを、私立に行かれる方もいらっしゃるったりとか、そういういろんな要素が絡んでいるので、どんなふうなことを参考にしながら抽選校を選んだんでしょうか。

【教育長】 学務課長。

【学務課長】 中学校の抽選校につきましては、例年ですと区平均、全体でならせば3割ぐらいの方が私立の中学校に行かれるということがございます。学校ごとにその辺の差はございますので、例年であればこのぐらいであろうと見込みを立てながら決めているんですけども、今回は委員ご指摘のとおり、学区域がかなり変わったということもございまして、それに伴って先ほど申し上げたような選択行動も若干変わっているところがあるということで、何分正直手探りのところがありました。特にこの2年間に関しては、移行措置ということがございますので、もともといた学校も優先的に抽選として選択ができるといったこともございますので、なかなかどういったところまで見ればいいのかというのは非常に難しいところでありましたけれども、やはりそうなりますと逆に安全を見ながら、要は最終的に抽選をしないと受け入れができなくなってしまうところもあるものですから、そういった意味では安全を見て少し多めの抽選校にしたということで今回は対応したものでございます。

【富尾委員】 ほんとうに大変だったと思います。

【教育長】 これからまた、先ほどお話があったように私学等へ抜ける子供たちが状況出てきてこれがだんだんと落ち着いていくということになるんでしょうけれどもね。特に、学事制度審議会を受けた新しい学校選択のスタートの年ということもありますので、手探り状態で今進めているような状況があります。

ほかにいかがでしょうか。

職務代理人どうぞ。

【菅谷教育長職務代理人】 学校施設担当とかかわるんじゃないかなと思うので、ちょっと場違いなところで申しわけないんですが。学校に私どもが行ったときに、学校見学をしたり、発表会のときを見て回ったりするんですね。最近行ったところで、城南第二小学校。非常にちょいちょいという研究をやっていて、部屋がないという感じがするんですよ。というのは、6年生が多分2クラスかな。2クラス出た後に3クラス入るということは、学級が増えますよね。2年生の学級が、廊下を挟んで非常に対抗、要はやりにくい教室の配置。3階建ての部分のところで、結構校庭は使いやすい形をしているんですけど、毎年200人近く増えていく状態だと、まさに教育長がさっきおっしゃったように、教室がそんなにつくれるわけじゃないから、だからどこかで、僕はわかりませんが、今まで見ていて、最近ずっと増えているんですよ。減っていくということはないのでね、学級数のことを、こんな学区域を変えてね、落ち着けばまたいいかもしれないけど、非常に不安に感じているところがあるんですけど、担当課長さんとしてはどうでしょうか。城南第二の話じゃないんですけど、危ないところは結構あるんじゃないかなという感じもするん

ですよ。いかがでしょう。

【教育長】 学校施設担当課長。

【学校施設担当課長】 一応、これまでご指摘のとおり、非常に人口のほう、区全体で人口推計を見ますと、今後10年間は当面増えていくというようなこともありまして、学校の施設の対応、これはもちろん現在改築を進めている中で、今後特に海側のほうの人口が増えてくる状況というのは今後もあるというところで、教育委員会としてもその辺の施設の対応、これは学校の状況等も細かく見ながら、教室不足がないように今後も対応していくということで考えているところです。

【教育長】 実際に教室が足りなくなったら、まずはどう考えればいいんでしょう。
学務課長。

【学務課長】 まず、現状は人口推計を見ながらですので、今ある学校の対応については、1つは、例えば多目的室とか、そういった部屋を転用していくというのがございます。それも実際限りがあるものですから、最近多いのが、1つは今までパソコン室として使っていたんですけども、実は、パソコン室、ノートパソコンを1クラス分40台ぐらいを設置して置いてあったんですけども、それを今タブレットに切りかえているところなんです。校内に無線LANを整備していますので、要はどこにいてもつながるということができますと、わざわざパソコン室として使わなくてもいいだろうということがありまして、パソコン室を教室に転用するというような事例が増えてきているのと、あとは、比較的多いのは、やはりそういった形で今までとちょっとさまざまな学習の機会が、やり方が変わってきているというのがあって、今一番多いのはいわゆる図書室を少し狭めて教室として使ってみるとか、そういった形で何らか、今ある学校を何とか使っていけるように対応していくというのが大前提になってございます。ただ、当然限りがございますので、どうしても難しいところに関しては順次建て替えをしているというようなことで対応しているところでございます。

【教育長】 ほかにプレハブを建てるとか、暫定的な処理はあるのかもしれませんが、幸い、本区においてはまだプレハブを建てて子供たちの教室を増やすという対応をしているところはないということではないでしょうか。ですから、今のような教室転用をもって校内での環境づくりをやっているという現状ですね。職務代理、よろしいですか。

ほかの委員の方々はいかがでしょうか。

【塚田委員】 人口が増えているということは、ある意味活力があるというか、豊島区は消滅してしまうとか、何か言われているでしょう、豊島区は。そういうのに比べれば、活気が出てきて、ただ、こういう施設も足りなくなるというのは困るので、その辺は学務課長さんによく考えていただいて、ここ10年ぐらいなんですか、増え続けるのは。

【教育長】 学務課長。

【学務課長】 品川区が出している人口推計によりますと、年少人口のピークがたしか2039年と言われているので、まだ当分先。今から約20年後ですね。20年は増え続けるという形で言われています。教室転用とか施設対応の話になりますと、実は昔はもっとお子さんがいらっしやった。古い学校は実は教室をたくさん持っていたんですね。品川区はわりと早い段階から学校の改築を始めまして、一番早い学校は20年ぐらい前からとりかかってきた。その時点での人口推計は実はこんなに子供が増える見込みではなかつ

たということで、例えば早い段階で建て替えをした第二延山小学校ですとか、それがその時点での人口推計に基づいてある程度学校規模をつくっていたというのがあって、例えば第二延山って、私が実は卒業したんですけれども、あのころは1,000人以上の子供がいて、学年で5クラスあった。それだけの教室を持っていたんですけれども、建て替えたことによって小さくなってしまったんです。ところが、今は人口推計も増え、実際に人口が増えてきてしまって、学校がいっぱいになってしまった。新しく建て替えた学校というのは、新しく教室をつくるということ自体がなかなか難しいわけですから、それで今対応に苦慮しているというような状況になってきているということでございます。

【塚田委員】 昔、生徒いっぱいいましたよね。私、50年前の話になっちゃうんですけど、私の中学は50人のクラスが10クラスあったですね。だから1学年500人。3学年だと1,500人。1,500人がどうしてあの中になのかと思う。

【教育長】 昔は画一的な教育を僕らも受けてきたという状況がありますから、それもできたのかもしれませんが、今は例えば中学でいうと数学ですとか、英語もやっているかな、少人数になってね、学んでいますので、教室がそれだけまた必要になってきているというような状況もあります。

海沼委員はいかがですか。

【海沼委員】 余ったときにすまいるスクールを、もとの教室を使ってやっているところがありますよね。もとの1年生の教室を使ってやっているところなんか、あそこをもとに戻せばいいのになって私なんかは思うときがあるんですけども。

【教育長】 具体的な質問が出ておりますけれども、学務課長。

【学務課長】 すまいるスクールに関しましては、もともと空き教室を使って展開をしていたところが多分にごさいますして、現状もそういった形で使っているところが多くございます。今後の展開ですけれども、なかなか学校改築ができない中では、すまいるスクールも場合によっては普通教室に転用させていただくような形で考えざるを得ないのがあって、現状、確かにすまいるスクールとしての部屋を持っていない学校が幾つかございまして、そういった学校は例えば昼は家庭科室として使っているところ、家庭科室なんかですと、放課後になるとあんまり使うことがございませし、あんまり余計な機械を置いていなかったりするということもあり、そういったところを午後からはすまいるに使うとか、そういった形で工夫して対応しているところもございまして、現状のすまいるスクールとして持っている学校、独自で持っている学校ももしかしたらそういった形で対応せざるを得ない状況も出てくるかもしれないということがございます。

【教育長】 限られた施設をどう活用していくかということになるろうかと思えます。

ほかにいかがでしょうか。

【塚田委員】 今のところ、新しい学校をつくるのかそういう計画はないんですね。

【教育長】 学校施設担当課長。

【学校施設担当課長】 学校の新設という形ではなかなか区内でできる用地が、土地がなかなか見つからないという、学校だと1万平米近くという土地が必要になりますので、なかなかこの区内で見つけるのは難しいというところで、今のところそういった計画はありません。

【塚田委員】 わかりました。

【教育長】 つくって20年後には減っていくという状況がね、まずありますしね、難しい判断になりますね、これは。子供たちの数も増えてそれはとてもよいことかなとは思いますが。今まで単学級、小学校で学年2学級持てなかったところ、例えば、これでいうと清水台ですとか、それから中延あたりも現在の予定者で見ると30人を超えていますから、このままでいけば2学級になっていくと。浅間台28ですから、もうひと頑張りというところでしょうか。そうなると、ほとんどの小学校がこれからだんだん学年2学級体制にシフトしていく可能性があるということで、単学級だったところは小規模からやや脱出してさまざまな教育活動に取り組めるというメリットが派生してくるという要素もあるという感じがいたします。

これについてはまた最終的な報告が、年が明けてから行われるということによろしいですね。

どうでしょうか。令和2年度学校制度における抽選校につきましてはよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【教育長】 では、本件は了承いたします。

その他ございますでしょうか。

【事務局】 特にございません。

【教育長】 では、先ほど決定いたしましたとおり、本日は議題が少ないですね。非公開の会議に移りたいと思いますので、傍聴の方はご退出を願います。

— 了 —